

『高知龍馬マラソン!』

梶原学園 外国語指導助手(ALT): カーター・フロスト

8月に日本に来た時、あらゆる競走ごとはもちろんのこと、まさか私がマラソン大会に出走することになるなんて夢にも思いませんでした。しかし私はこの2月に高知龍馬マラソンに出場したのです。それは人生で最も過酷な経験のひとつとなりましたが、同時に最も価値ある経験にもなりました!

去年の10月、私はランニングを楽しんでいることを時々同僚に話していました。すると同僚から、5カ月後に開催される高知市の恒例行事である高知龍馬マラソンへのエントリーを後押しされました。それまで私が走ったことのある最長距離は10kmだったにもかかわらず、私は自信をもって適切で一貫したトレーニングに励み、本番では7時間以内に完走することができました。自分自身への挑戦に対する熱意、そしてこのようなユニークな行事に参加することへの熱意が私に5カ月のトレーニングを決心させました。簡単なことではないのは分かっていましたが、やることに価値のないものなんてないと信じていました!

アメリカにいたころ、私は週に二回しか走っておらず、一回に走る距離は3kmにも満たないものでした。日本で初めてトレーニングを始めた時、5kmを30分以内に走るのが精一杯でした。限界を超えて沢山トレーニングに励みました。5カ月間、ただ闇雲に走り続けるのではなく、ストレッチや休息、減量、適切な靴を履くことにより身体のケアをすることを意識しました。1月までに、私は何とか22kmを2時間20分で走れるようになりました!本番のたった半分の距離ですが、自分自身の進歩に驚かされました。私のトレーニングは山場を迎えました!しかし、フルマラソンは遥かにずっと困難であることは分かっていました。

大会当日、高知市に到着した時、私は人の多さに衝撃を受けました。そこには総勢一万人を超えるランナー、ボランティアスタッフ、観客がいました!やっとの思いで私のスタートグループを見つけた時、私はとても緊張していました。この脚が本当に私を42km先のゴール地点まで運んでくれるのか不安でした。膝が耐えられるか?途中で脱落しないか?そこに答えは一つしかなく、私は決心しました。何が何でも全力を尽くす!そのために練習してきたのだから!

前半22kmの間、私は自分のペースで同僚たちと走りました。上り坂を駆け上がる時でさえ心地よかったです。楽勝でした!しかし、坂本龍馬記念館の近くの間中地点である桂浜に近づくにつれて徐々に脚が重くなってきました。ヘッドホンの充電は切れ、雨が降り始めました。レース後半、海岸沿いを走り始め、私は以前よりもさらに強く走り切る決心を固めました。

約30km地点ではもはや足の感覚がなくなりました。一步ごとに膝は悲鳴を上げました。一瞬、リタイアが脳裏をよぎりました。ゴールは無理だ、そう思いました。来年以降もチャンスはある...そう思った矢先、私はここまでしてきた努力を思い出しました。私を応援してくれる人々を思い出しました。もしここで諦めたら一生後悔することになる...だからゴールまで私は走って走って走り続けました。タイムは6時間40分、タイムオーバーまで残り20分でした。良いタイムとは言えません。しかし「自分が成し遂げた」記録です。初めてフルマラソンを走り切りました!技研スタジアムに着くまで、完走した実感が湧きませんでした。

高知龍馬マラソンは最高の経験になりました。それは私の限界を押し上げてくれたからというだけでなく、梶原学園の同僚たちと参加できたからでもあります。太平洋を眺めながら高知市内や桂浜を走り抜けた経験はこれまで経験してきた何物にも代え難いものでした。この記事を書いている今もまだ脚が痛みますが、それでも私は幸せです。自分自身の限界に挑戦し、新たなゴールに到達できたことで私は幸せです。来年はもっと早く走りたいです!日本でもっともっと走りたいです。



梶原学園の同僚、藤島先生(左)&山口先生(右)と!

(日本語訳: 町 ALT 西村航平)